



# H28年度 産業日本語研究会 ライティング分科会 活動報告

報告者 猪野真理枝

# 目的

---

---

## 公共性の高い産業日本語を普及

- 特許ライティングマニュアル・日本語マニュアルの会の「日本人のための日本語マニュアル（暫定第1版）」の活動成果を引継ぎ、公共性の高い産業日本語の書き方を普及していく



# 活動概要

---

---

H28年9月～H29年1月

- 4回の会議を実施



- 分科会活動において、「日本人のための日本語マニュアル（暫定第1版）」を参考にし、「公共性の高い日本語マニュアル」のあるべき形を方向づけた

# 第1回

---

---

## 会議概要

- 特許文書ではなく、一般的なビジネス文書における日本語の書き方を旨指す
- 起草から翻訳までをステップごとに区分したライティングのモデルプロセスを確認
- モデルプロセスの「表す日本語」と「伝える日本語」のルールを中心にマニュアル化を旨指す

---

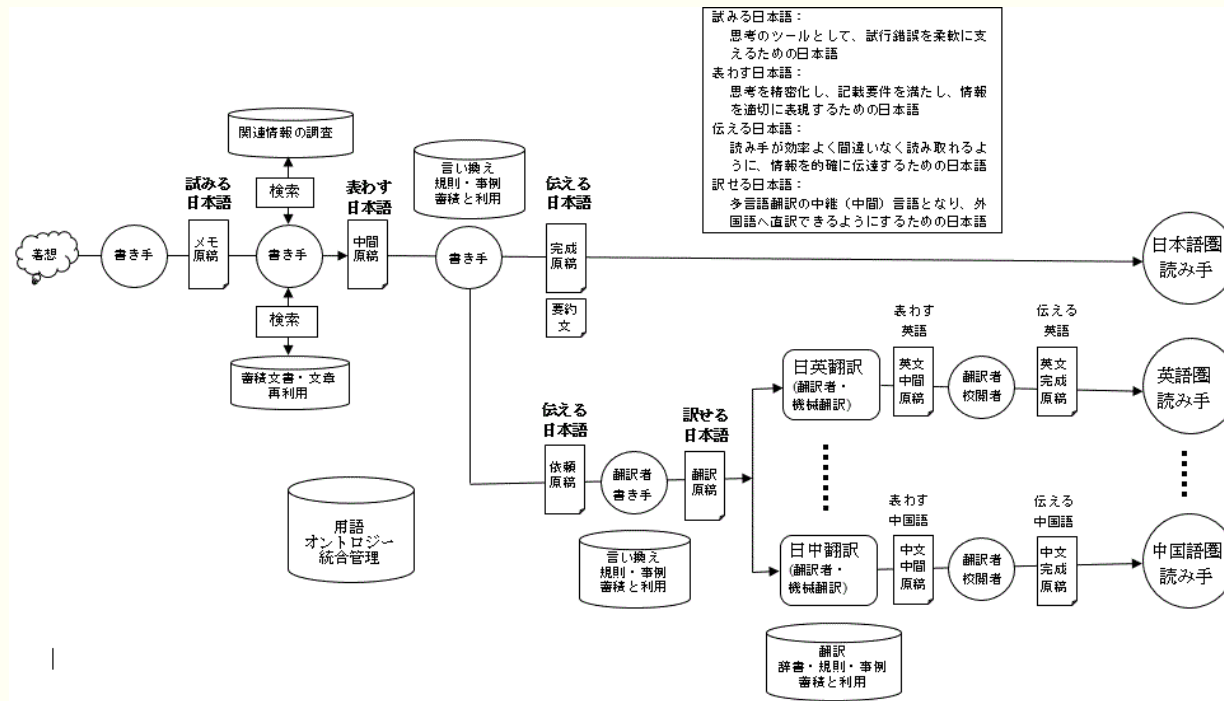
### 課題

表す日本語・伝える日本語・訳せる

日本語のステップの切り分けが必要

---

# ライティングのモデルプロセス図

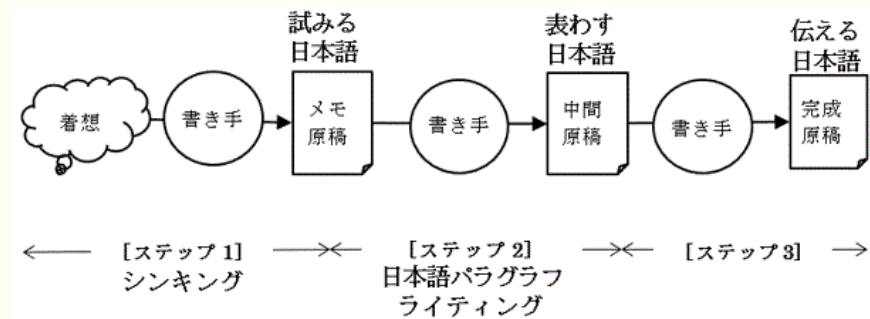


STEP 1: 試みる日本語 → STEP 2: 表す日本語  
→ STEP 3: 伝える日本語 → STEP 4: 訳せる日本語

## 第2回

### 会議概要

- 「表す日本語」・「伝える日本語」・「訳せる日本語」のルールの切り分けを具体的に検討



- 「伝える日本語」のルールの改良

#### 課題

「表す日本語」と「伝える日本語」の切り分けの検討が必要となる

# 第3回

---

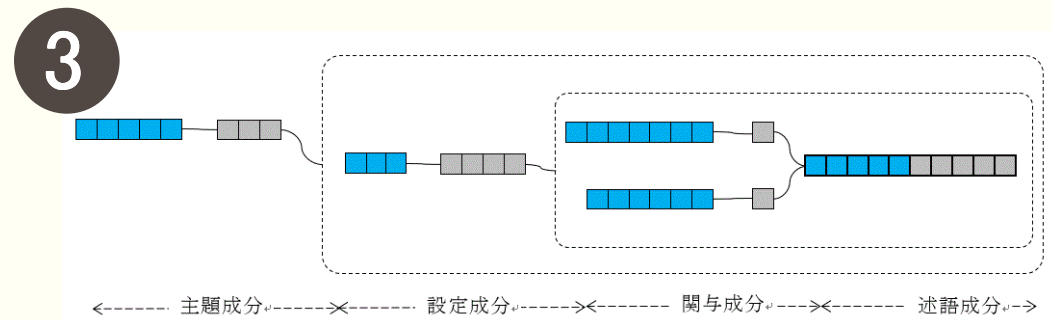
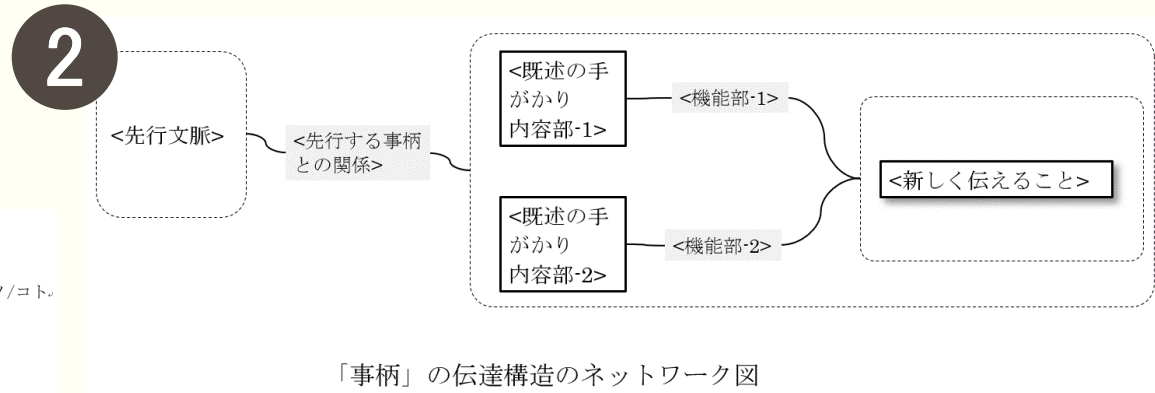
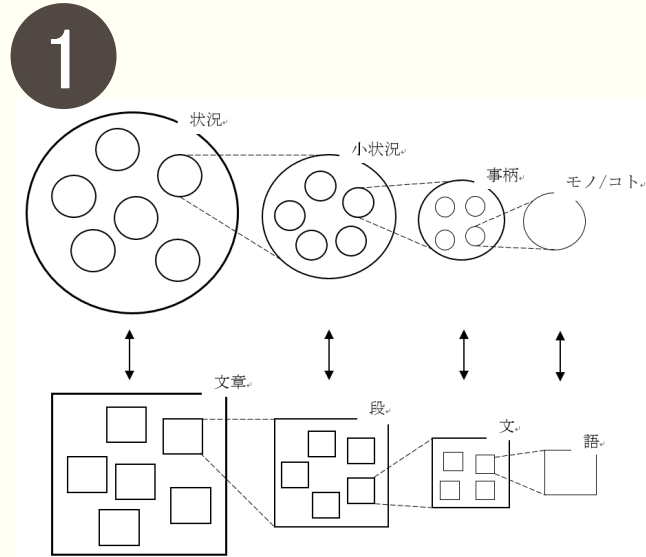
---

## 会議概要

- ライティングルール的前提となる、日英中の言語共通の文章の仕組みを確認
- 共通の枠組みで文章が書かれていれば、翻訳するときも容易になると考えられる

.....  
**課題** 「伝える日本語」内のパラグラフの書き方に係るルールは、「表す日本語」へ移動するなどの調整が必要  
.....

# 言語共通の文章の仕組み



- ①言語は、表現したい状況を文章・パラグラフ・文・語に対応させる構造をもつ
- ②文は、3つの要素(<先行する事柄との関係><既存の手がかり><新しく伝えたいこと>)の伝達構造をもつ
- ③文の成分は「主題成分・設定成分・関与成分・述語成分」という情報構造をもつ



## 第4回

---

---

### 会議概要

- 文章は起・承・結の3種パラグラフから構成
- 1つのパラグラフに含まれる文数は、4～5文。長くて8～10文。表記は、改行一字下げか、パラグラフ間に空行を挟む
- パラグラフの内部は次のように構成

[<道標文> <前方支持文> <話題文> <後方支持文>]

.....  
道標文の例 ..... 要点を3点にまとめる。

その第1は以下である。 すなわち、外国語を使う.....  
.....

# 課題

---

---

## 具体化が必要

- 結論は起・結の両パラグラフに入れる欧米型か、結だけに入れる日本型か、などを明瞭に
- ユーザーが使いやすいパラグラフの型にする
- 対象とする文書タイプ「仕様書・議事録など」を具体的に設定すべき
- 「伝える日本語」内のパラグラフライティングに係るルール→「表す日本語」に移動

# 今後の方針

---

---

## パラグラフに視点をおいたマニュアル作成

- パラグラフの書き方に視点を置いた、新しいライティングの指南書とする
- パラグラフ形式をもつ文書が対象。例：仕様書、議事録、報告資料など
- 「日本人のための日本語マニュアル」の3章「表す日本語」「伝える日本語」をベースにしたマニュアル作成を目指す